

# 2025年福井県フードバンク活動交流会報告

## ～福井県フードバンク連絡会とこども食堂との交流会～

【日 時】 2025年12月9日(火)10時00分～12時00分

【会 場】 福井県民生協 本部センター3F ホール

【参 加】 63人（連絡会事業者10団体15人、こども食堂24団体39人、北陸東海フードバンク関係4人、  
福井県循環社会推進課・児童家庭課・北陸農政局5人）

【主 催】 福井県フードバンク連絡会 【共 催】 こども食堂ネットワークふくい

【開催目的】

フードバンク食品を提供する事業者とこども食堂や福祉団体などの提供先との顔の見える関係づくりを進めます。  
あわせてフードバンク活動やフードドライブ活動を通じて、食品ロス削減と地域福祉へのお役立ちのネットワークを広げ  
SDGs社会の実現をめざします。

【テーマ】 フードバンク活動における県内外でのネットワーク拡大について

【内 容】

<開会あいさつ>

連絡会会長 檜原弘樹氏(福井県民生協理事長)



日頃より企業の皆さまから寄せられているフードバンクへの食品寄付に感謝の意を表するとともに、こども食堂運営者の皆さまの活動に深く敬意を表しました。  
また本日の活動報告や交流を通じてフードバンク活動がさらに広がることを願い、今後もフードバンク活動を通じて、より良い地域社会づくりに取り組んでいきたいと挨拶しました。

<報告①>「フードバンク・フードドライブ、食品ロス削減の取り組みについて」

報告:鹿野幸治氏(株式会社 PLANT 総務部長)



連絡会設立時より参加いただき、現在衣食住の生活必需品を扱うスーパーセンターを展開する PLANT さんからこの間のフードバンク活動やフードドライブ活動、こどもの仕事体験、規格外野菜の取り扱いによる食品ロス削減など SDGs の取り組みをご紹介いただきました。

## <報告②>「移動子ども食堂くるくるごはん804の紹介」

報告:藤井貴子氏(くるくるごはん804代表)



福井県内で唯一移動子ども食堂を実施している「くるくるごはん804（はちまるよん）」。  
福井市内をエリアに拠点の「だん・だん」と地域の公民館などで月2回のこども食堂の取り組みについてご報告をいただきました。

## <報告③>「子どもの未来応援プロジェクトの取り組みについて」

報告:小林敦氏(北陸フードバンク推進協議会・新潟県フードバンク推進協議会事務局長)



この間新潟菓子メーカーの食品を福井にもご提供いただいております、北陸4県（新潟・富山・石川・福井）のフードバンク団体のネットワーク組織の事務局を担っていただいている新潟県フードバンク推進協議会より、新潟でのひとり親家庭支援や「あしながサント」(ひとり親家庭や生活保護世帯へのクリスマスケーキプレゼント)の取り組みのご紹介をいただきました。

その後こども家庭庁の「ひとり親家庭等食事支援事業」助成金の窓口をしている中間支援団体 NPO 法人 POPOLO の鈴木和樹氏からご挨拶をいただきました。

## <グループ交流>

6グループに分かれて、報告を聞いての感想やこども食堂と連絡会企業・団体との情報交流を進めました。





### 《グループ交流会で出された声》

- ・こども食堂のイメージがまだ“貧困家庭”なので、“居場所”のイメージをもっと発信したい。食事支援だけじゃないということを広めたい。
- ・こども食堂で一番困っているものは、お米やお肉。この支援がありがたい。レトルトカレーなどすぐ食べれるものがある。
- ・個人の写真は撮れない場合が多いが、支援をもらっている団体には報告は必要。悩むことが多い。
- ・コロナ禍以降、使い捨ての食器を使っている。今後その支援もありがたい。
- ・こども食堂を実際見に来て欲しい。
- ・こども食堂は、皆の集まる場所であり、配食や炊き出しなどの防災減災につながるのではないかな。
- ・新潟のひとり親のお母さんの支援の実例を聞いて涙が出た。
- ・本当に困っている人が取り残されているのではないかな。こども食堂などに来れない人にどう対応するか。
- ・行政や社協、民生委員とのつながりが必要。
- ・こども食堂はボランティアだから出来ることもあるが、限界もある。活動の支援体制が大事。

### 《アンケートから 交流会への評価》 約88%の方が参考になった・良かったと回答いただきました

- ・企業の方の話を聞いて、SDGsなどの取り組みが分かり良かった。
- ・現場の話を聞いて、こども食堂が大事な場所であることを痛感し、より一層活動を広めたい。
- ・それぞれの活動の話を聞いて、仲間がいることを知り、これからのエネルギーにつながった。
- ・行政や企業の方に直接話を聞いてもらう機会となって良かった。
- ・利用される方の視点が聞けて、フードバンク活動への想い（原点）が再認識できた。
- ・フードバンク活動について、北陸地域全体の状況が分かり勉強になった。

### 《アンケートから 交流会内容や今後の課題》

- ・グループ分けがもう少し少ないと話しやすいと思う。声が聞きづらかった。交流会の内容をもっと充実して欲しい。
- ・年1回とても参考になる。行政・事業者の方と話しできるのは良い機会だと思う。
- ・こども食堂運営のためにボランティア人数の確保が課題。食品だけでなく、容器などの消耗品の確保も課題。

### <閉会あいさつ>

こども食堂ネットワークふくい 共同代表 南康人氏（ひまわりキッチン代表）



連絡会企業への日頃の感謝と出席者へのお礼を述べられました。



終了後助成金を活用して手配した、こども達へのクリスマス菓子ブーツ1,000個、その他フードバンク商品を22団体に提供しました。

※交流会は北陸労働金庫様の「ろうきん働く人と子どもの明日を応援プロジェクト2025助成金」を使い開催しました。